

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」

NPO法人から任意団体に

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」は、1976年以降次々と明らかになった台峯地区の宅地開発計画への反対運動をきっかけに、台峯緑地の保全活動を積極的に展開してきた「台峯のみどりを守る会」のメンバーを中心に新たにトラスト運動を行うべく、1998年10月、任意団体として発足し、やがて2001年5月にNPO法人として組織化された。

こうした活動の結果、2004年秋に鎌倉市が台峯緑地の購入と保全の方向性を示し、12月には全面保全が決定し、台峯を開発から守るといふ同会の目標は達成された。

その後同会は、周辺緑地の保全のために集まった浄財を市へ寄付するとともに、「山歩き」や「山の手入れ」、市との協議などを行い、台峯の現状の自然が維持されるよう見守り続けてきた。7面に活動のご案内。

鎌倉市は山崎・台峯緑地（約27・5㌔）の豊かな自然環境を保全・活用し、都市公園とするため、2007年から整備をはじめ、昨年4月、その一部約19㌔を開園。今年度中には全面開園する見込みがあった。同会は、これを一つの区切りとしてNPO法人としての当基金の解散を9月23日の臨時総会で提案し、賛成多数で可決された。



山の手入れをする会員たち(同会提供)

今後、任意団体として、「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」(元理事長・新会長 出口克浩)の呼称で「山歩き」「山の手入れ」、市との協議などの活動を継続していく。

鎌倉朝日2021年12月1日